



朝日子だより

特別編<国家試験>

特別編とは

昨年度までの朝日子だよりの学生編・社会人編とは少し変わり、社会に出た先輩方の中でも、国家試験に合格した方から、在校生にあてた通信です。

在校生は、難しい試験を突破し、希望の職業に就くまでの話を参考に今後の進路を考えていて下さい。

吉田高等学校の皆さんへ

吉田高校、そして大学を卒業して今の職に至るまでのことを自分なりに書かせて頂きました。皆さんの進路決定の一助となれば幸いです。

羽田 博彦 (平成16年度 理数科卒業)

出身大学：千葉大学 学部・学科：薬学部

職業名・資格名：薬剤師



興味を持つきっかけ

1. なぜその職を目指したのか

自分は幼少の頃より漠然とはありますが、医療関係の仕事に憧れていました。それが年を経るにつれ、「薬学」に対する興味と憧れとなり、その想いの先に薬剤師という職がありました。この道に進もうと決めたときは、自分の好きな分野を学んで更にそれを人の役に立たせることが出来るというのは、自分にとって正にうってつけの仕事だと思いました。



西千葉キャンパス

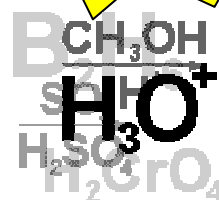
2. 職業・資格までのおおまかなルート

就職および資格取得までのルートなのですが、残念ながら自分は皆さんにそう多くのことを伝えることが出来ません。といいますのも、医薬分業が進み、それに伴い自分の一つ下の代(2006年度)から医学部同様、六年制を導入したからです。ここで注意したいのは薬学部生全員が六年制となった訳ではないということです。簡単に言うと薬剤師志向の人は6年制に、研究者志向の人は4年制にというものです。2年生の時に進路選択をし、それ以降は学ぶこともかなり違ってくるので以下でそれぞれについて簡単に説明したいと思います。

大学によるので調べよう

i) 1~2年生

この時期はあまり専門的なことはせず、基礎科目が中心となります。自分の大学では、第二外国語(自分はドイツ語でした)や体育、学部関係なく取れる共通科目など、自分が取りたい講義を自由に選べたのはこの時期だけでした。



ii) 4年制

4年制の特徴として最大のものは実務実習(病院実習や服薬指導実習など)がなくなり、それに伴って4年制卒業者には薬剤師国家試験の受験資格が与えられなくなったことです。薬学部をせっかく卒業したのに……と思う方もいるかも知れませんが、研究に携わっている人で薬剤師免許を使ったことがある人は殆どいない(自分は会ったことがない)のが現状です。皆さん、万が一、億が一の保険程度に捉えていますので心配する必要は殆どありません。

学ぶ内容としては、3年の内は講義と実験実習中心となります。内容は、薬理学などの専門的なものや、有機化学などの基礎科目のより深いものが中心となります。研究をする上で必要な考え方などの下地作りの期間ですね。



そして4年生ですが、この学年からは実際に研究室に配属され、一つのテーマについて一年間みっちり実験・研究をすることになります。国家試験がなくなったので研究期間が2~3ヶ月延長され、今までよりも実験に集中できる環境になりました。

最後に、4年制の方はその殆どがそのまま大学院に進学します。大学院では講義もありますが、基本は実験でその内容も4年生の時より専門的で高度なものとなります。

iii) 6年制

6年制の最大の特徴は半年以上かけて行われる病院・薬局実習です。これは実際に病院および薬局に行き、そこで実際に薬剤師の方に混じって働くことで現場を知り、より質の高い薬剤師を確保するためのものです。それまではせいぜい一ヶ月の病院実習だけだったのが、期間・内容ともかなり充実したものとなりました。

また講義も栄養学や生薬学といったものの他に、患者さんとの円滑なコミュニケーションのための講義など薬剤師として現場に必要な能力を伸ばす科目の割合がかなり増えました。自分たちの世代まではどちらかというと研究の方向に講義科目が偏っていたので、6年制で導入されたものの中には今まで見たことのない新しい講義が多数あります。



3. 資格試験とその内容

前述の通り、4年制の方は国家試験を受けないので6年制の話となりますが、6年制の方には試験が3回あります。その内二つは病院・薬局実習の前に受けるもので、実際に医療の現場に行く前に当人に十分な能力があるか確認するためのものです。それぞれCBT・OSCEといい、前者は筆記試験、後者は実技試験となっています。受けた後輩に聞いた所、どちらも基本的なものの確認で難易度は決して高くはなく、事前に大学がやってくれる対策授業で十分カバーできるものだったということです。

次に国家試験なのですが、こちらは残念ながら難易度等は詳しく伝えられない状況です。というのも4年制から6年制への移行に伴い試験範囲が大幅に変わったことにより、今までの試験とは別物になってしまったためです。試験内容としては有機化学や生物化学といった基礎薬学に加え、医薬品の構造・作用の仕方などを問う医療薬学や薬事法などの薬剤師に関する法律がありますが、今後はその中でも医療薬学の比率が増えていくだろうと予測されています。

4. 試験対策・学習方法

大学で使っている教材はそれぞれの分野についてかなり掘り下げているので、短期間で満遍なくやる必要のある国家試験には基本、予備校が出版している教材と過去問を用います。大学によってかなり違いが出ますが、自分の大学の試験対策は、大体試験の2ヶ月ほど前から試験期間として休みを貰い、その期間ひたすら教材をやりこむというものでした。しかしこれはあくまで千葉大学の例であり大学によって、取れる対策期間、大学側でやってくれる対策などは全く違うものとなります(このためか、大学別の合格率も結構バラついたものとなります)。

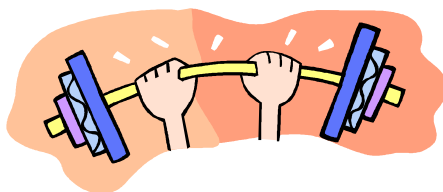


基本は今までに習っていたことの復習となるのですが、一年の時にちょっとやっただけでそれ以降全く触れてない、なんてものは結構ザラだったりするので自分は試験期間中に苦労する羽目になりました(笑)。皆さんには今のうちから予習・復習を組み込んだ自分なりのスタイルを確立することをお勧めします。ちなみに自分は研究室の教授が勧めていた「予習1回、復習3回」のスタイルを遅延しながら何とか確立して乗り切りました。



5. いま役に立っていると感じる高校・大学時代の経験

高校時代の経験でいえば、勉強(受験)以外は食事と睡眠以外しないという極端な生活でも折れない根性でしょうか(笑)。これは試験期間中は言うに及ばず、四年の時の研究生活でも役立ったので大変感謝しています。大学時代ではコミュニケーション能力の向上の面で、アルバイトの経験はとても役立ちました。皆さんにも大学に入った暁には、積極的にアルバイトをしていくことをお勧めします。



6. その他

i) 出身大学による差

薬剤師になる上での出身大学による差は殆どありません。これは6年制になっても変わらないそうです。ただ研究者を目指している方には国立大学、それも設備・研究内容ともに最先端に位置する大学(東大など)をお勧めします。これらの大学にはやはり、その分野で名を馳せている教授が多くいらっしゃるるので、受けられる教育の質・その後の進路の幅は他の大学と比べると高いものとなります。

ii) これを読んでくれている皆さんへ

皆さんはこれから大学受験など、様々な壁にぶつかることもあると思います。しかし例え壁にぶつかってもそれを乗り越えるためのものは意外と身近にあってあります。大事なのは壁の向こうにあるものを諦めないことです。自分はこれを言われて頭をガツンと殴られた思いでした。自分も薬剤師としてひよっ子のためこれからの困難に戦々恐々としている所もありますが、まずは諦めないことです。一緒に頑張りましょう。

